

< 2018年ルール変更点抜粋（参加選手向け） >

2018年5月
福井県テニス協会、審判部

● ライン際のボールをイン（グッド）と判定する条件

改訂前	・ボールがラインにタッチした時。 ・ボールを見失って判定できなかった時。	
改訂後 (1行追加)	・ボールがラインにタッチした時。 ・ ボールとラインの間に空間が見えなかった時。 ・ボールを見失って判定できなかった時。	P. 60

● チェアアンパイアがつかない試合での判定方法

改訂前	判定とコールは、相手に分かるように、はっきりとした大きな声とハンドシグナルを使って速やかに行なう。	
改訂後 (一部追加)	判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、 ボールの着事後 速やかに行なう。	P. 60

● チェアアンパイアがつかない試合での各判定とコール

改訂前	ネットより自分側のコートのみ判定をできた。	
改訂後 (変更)	各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。 a) 「フォルト」「アウト」「グッド」は、ネットから自分側のプレーヤー。 b) 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は、両プレーヤー。 c) 「フットフォルト」は、コート内にいるレフェリー・アシスタントレフェリー・ロービングアンパイア。(審判にリクエストして、コート内に入ってもらっている場合のみ)	P. 61 P. 62

● チェアアンパイアがつかない試合でのオーバールール

改訂前	(曖昧だった)	
改訂後 (明確化)	「イン」「アウト」のオーバールールは、巡回しているレフェリー・アシスタントレフェリー・ロービングアンパイアのいずれかが行える。(たまたま通りがかった時だけ言えば良い。) 1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。(但し、明らかなウィニングショットの場合は、そのショットが有効となる。) 2回目以降は故意に妨害したとして失点する。	P. 62

● チェアアンパイアがつかない試合でのコート外からの妨害

改訂前	(曖昧だった)	
改訂後 (明確化)	コート外からの妨害(隣のコートからのボール侵入など)による「レット」のコールは、両プレーヤーができる。	P. 62

● セルフジャッジの試合で誤ったコールを直ちに訂正した場合

改訂前	間違ったプレーヤーの失点になる。	
改訂後 (変更)	1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。(ただし、明らかなウィニングショットまたはエースだった場合は、そのショットが有効となる。) 2回目以降は故意に妨害したとして失点する。	P. 62

● レフェリー・アシスタントレフェリーの仕事(コートの巡回)

改訂前	(曖昧だった)	
改訂後 (変更)	試合中のプレーヤーが直ぐにレフェリー・アシスタントレフェリー・ロービングアンパイアを呼ぶことができるよう、コートの外周を出来る限り巡回する。	P. 62

● 遅刻のペナルティ

改訂前	遅刻が10分を超えた場合、トスの敗者となり、ゲームカウントは0-1となる。15分を超えたらノーショウ(敗者)となる。	
改訂後 (変更)	10分のペナルティが廃止。15分を超えたらレフェリーの判断でノーショウ(敗者)となる。	P. 151

● コンプレッション・シューズの明確化

改訂前	(曖昧だった)	
改訂後 (明確化)	「コンプレッション・シューズ」の「シューズ」とは、短い履き物の事を指す。長さは、膝辺りまで。(膝上・膝下は問わない) 足首までのコンプレッション(又はスパッツ)は着用不可。	無し

● ウェア等のロゴ規定

別紙「JTA女子 2018・JTA男子 2018」を参照。

● ルールブックの訂正

別紙『JTA テニスルールブック 2018』訂正箇所のご案内』を参照。